

# 第5回双葉町復興まちづくり委員会 議事録

■日時：平成24年11月26日（月） 部会 午後1時00分～午後2時45分  
委員会 午後3時00分～午後4時30分

■場所：双葉町役場埼玉支所 4階家庭科室

■出席者：双葉町復興まちづくり委員会委員  
事務局（双葉町企画課）

（参照：第4回双葉町復興まちづくり委員会座席表）

## 1. 開 会

### 【三井所 清典 委員長】

委員長の三井所です。それでは、第5回双葉町復興まちづくり委員会を始めます。議事進行に委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。それでは、先程来、部会の議事進行ご苦労様でした。今日はその部会の審議状況の話を共有したいということで報告をいただく、あるいは若干審議をするということと、「計画に掲げる基本理念について」議論をさせていただき予定でございます。

## 2. 議 事

### （1）部会の審議状況について（報告）

#### 【三井所 清典 委員長】

それでは、これから議事に入りますが、部会の審議状況について報告をいただきます。まず資料2「部会の審議状況について」企画課長の説明を求めます。よろしくお願いいたします。

#### 【事務局 駒田 義誌】

資料2をご覧いただきたいと思います。部会の審議結果ですけれども、それぞれ11月12日に第1回の部会、11月26日に第2回の部会、本日ですけれども、先程まで第2回の部会がありました。それぞれについて、どういう議題でやったのか、簡単に私のほうから紹介をさせていただきます。

生活再建部会につきましては、第1回の部会につきましては、仮の町の形態についてということで、集中型・分散型で整備するメリット・デメリット等について議論を行っております。本日につきましては、仮の町に必要な機能についてということで、仮の町に必要な都市機能、住環境、生業の再開、雇用の創出等をご議論をいただいております。

ふるさと再建部会につきましては、11月12日の第1回部会で帰還に向けた条件についてということで、放射線の除去の程度、また本日につきましては、津波被災地域の復旧・復興についてということで、津波被災地域の位置づけ、当面の復旧、復興のあり方について取り上げております。

きずな部会につきましては、11月12日の第1回部会につきましては、双葉町民のコミュニティの維持についてということで、町民のコミュニティを維持していくための取組等について、また本日の第2回部会につきましては、双葉町の歴史・伝統・文化の継承についてということで、

38 歴史・伝統・文化の記録・継承、人材育成、文化遺産の取扱等を取り上げております。審議の経  
39 過については以上です。

40 【三井所 清典 委員長】

41 どうもありがとうございました。それでは、各部会の審議状況について、部会長の皆さんから  
42 簡単にコメントをいただきたいと思います。まず、生活再建部会の高野重紘部会長、お願いいた  
43 します。

44 【高野 重紘 委員】

45 今日は、仮の町に必要な機能についてということで皆さんと意見交換したんですが、はじめか  
46 ら充実した施設を作るのは難しい。町を発展させていく中で、充実させていくのが1つの考え方。  
47 もう1つ、機能を考える際には、5年先までとか、10年先までの期間で変わってくる。3番、30  
48 年、50年のスパンで考えないといけない。4番、鎮守の森を考える必要もある。5番、学校は、  
49 仮の町で立派なもので作るよりも、まず、再開すべき、立ち上がるべきだ。6番、場所が決まら  
50 ないと、機能の検討も進まない。7番として、公営住宅にはみんなが集まれる場所を確保するこ  
51 とが必要である。こういう意見が出ております。以上です。

52 【三井所 清典 委員長】

53 ありがとうございます。部会長からの報告を続けます。引き続いて、ふるさと再建部会の木  
54 幡敏郎副部会長、お願いいたします。

55 【木幡 敏郎 委員】

56 木幡です。委員長の清水委員が欠席ということで、私、副部会長ということで、報告をさせて  
57 いただきます。ふるさと再建部会、まず、帰るということを目標に取り組むべきだということで、  
58 最終的に一致したわけでありませうけれども、それまでには委員の皆様どなたも、いろいろ本当に難  
59 しいと思っておられるんだと思います。150年から200年は帰れないんだと、そういうような声  
60 をいただいたあとでの部会でありましたので、そのようなことで、しばらくはいろいろと話をし  
61 ましたが、帰るという目標に向かっては何ができるのかということで、まずは部会でいろいろ、  
62 話をしていました、帰還に向けた条件はと。条件としては、インフラ整備は一定規模の帰還条件  
63 とする。当然、上下水道等のインフラも新たに作り直すべきだということです。線量が高い所、  
64 低い所あります。線量の高い所は自然減衰に任せて、低い所の除染をすること。特定地域の高さを  
65 理由に戻れないという、前に進めなくなるというようなことがありまして、戻り場合には仕  
66 事の再建も併せて検討しなければならない。それで、この部会の役割というのは、住民の見通し  
67 を立ててもらおうための材料を出すこと。ですから、議論した結果、難しいという結論は、まだ先  
68 の話。それはその時考えれば良いのではないかとということで、ふるさと再建部会の計画作り、町  
69 の計画作りについては、帰還を目標に計画を作るべき。状況が変わってくると、その都度計画を  
70 作り直す必要がある。たしかに、これは今の燃料の取り出しなども含めて、まだまだ不安定など  
71 ころがある。そういうところでは、計画はその時々で作り直すべきではという意見もありました。  
72 この計画作りの観点からですが、なんととっても安全な未来があることが条件。そのためには、  
73 まず、住む人にとっては、環境が損なわれないことであり、社会においては、双葉町民の生計が  
74 成り立つこと。そしてまた、生活をするうえで経済が健全であることについて、今後議論を進め  
75 るべきであろうということでした。今後、ついてまわる除染や中間貯蔵施設は、他の町と連携や、

76 足並みを揃える必要がある。放射能の問題については、どの程度で許容できるかが問題となる。  
77 そしてまた、今言われる中間貯蔵施設については、最終処分場を明示させるべき。町民の意向調  
78 査をしてほしいと。この中間貯蔵施設や除染については、やっぱり委員として委員会全員で勉強  
79 をしていくべきではないか。こんなふうな意見が出ました。今日の議論については、ふるさと再  
80 建部会で津波被災地域をどうするかということについて、大変難しいテーマでありました。今日  
81 は両竹区長さんのご出席をいただいて、いろいろ思いを聞きながらみんなで話をしたわけです。  
82 実際、この津波の状況で大変姿が変わってる地域であります。家も無い、田畑もほとんど原型を  
83 残していないということで、どのような形にしたらよいのか。ただ、浜野の復興無くしては、双  
84 葉の復興は無いという意味で、この地域をどのような地域にするかということは、浜野は、やっ  
85 ぱり住んで安心な高台移転。また、両竹についても当然河川があるところでは、その嵩上げを堤  
86 防の嵩上げをするべき。この今、地盤沈下をしているような土地があるということからは、その  
87 取組については国の予算も含めて国の取組を示すべきではないかということでありました。それ  
88 から、線量が低いと言われる浜野地区でありますけども、そこにはやはり人が住むには当然、安  
89 全な防潮堤、道路をつくりながら、これは産業としては働ける場所、メガソーラーとか、それか  
90 ら農地、あの辺は浜野耕土であります。そこは基盤整備等を進めながら、水を綺麗にしてほし  
91 いという条件は、やはりこれは山の除染にもつながっていくのではというふうなことでしたね。  
92 働く場所については、防災用緑地やかさ上げ、区画整理、それからやっぱりこれは双葉町だけ  
93 はなくて、双葉地区はみんな浪江町も同じでありますので、このような話し合いが当然必要だ  
94 ということでありました。以上です。

95 【三井所 清典 委員長】

96 大変深刻なテーマで議論がなされたと思いました。引き続きまして、きずな部会部会長の高野  
97 泉委員、よろしくお願いいたします。

98 【高野 泉 委員】

99 きずな部会長の高野でございます。まず1つ目が、去る12日に行われました、「双葉町民のコ  
100 ミュニティの維持について」ということで協議をさせていただきました。避難されている皆様方  
101 が、会って話をするきっかけは、「おはようございます」、「こんにちは」、これが日常の挨拶であ  
102 りますが、必ず相手と会うと、その前にどういう言葉が出て来るかということ、「今どこにいますか」、  
103 「どこに住んでんだ」と。相手の情報を聞きたいし、「私は此処にいるけども、あなたはどこに  
104 いますか」と言って、手を握り合う。今このようなことが挨拶の主流になっています。なにか、  
105 変わった挨拶言葉になっている気がします。これは、町民や友との連絡が取れない。あるいは、  
106 取りたい。そういったことがありました。ある双葉郡内の町では作成されておりますが、お互い  
107 に連絡が取れる、いわゆる、新電話帳のような、あるいは連絡帳のような、双葉町の町民が情報  
108 交換ができる資料。そういったものを作成することが必要ではないのか。もちろん、これをや  
109 るには、個人情報というようなものもありますので、本人の同意とか、そういったいろいろな  
110 のを確約していかなくてはなりません。大きな1つとして、電話帳等の作成をしていきたいと  
111 うことであります。それから、もう1つが、各仮設住宅とか、そういうところでは、コミュニ  
112 ティを取るために、いろいろと行事等を行っており、町民相互の交流会等があるわけですが、やは  
113 り、懐かしい顔、友達、友人、そういった町民を1カ所に集めた催し物、例えば町民盆踊りとか。

114 ある仮設では、盆踊り等をやっているわけですが、町民1カ所に集めたところで、催し物をする。  
115 例えば今までは、大字毎で、どこどこに集まりますよという広報をしておりますが、それを1カ  
116 所に集めて、みんなが合同できるような体制をとる。その会場を行政区毎に分けてもいいと思  
117 いますが、そのようなイベントをしながら、集まる環境をつくったらどうか。それから、やはり子  
118 どもたち、我々の年代もそうかもしれませんが、それ以上に、学校の生徒、これから双葉町を背  
119 負っていく、日本を背負っていく子どもたちのきずなづくりをしなければ、将来のまちづくり  
120 にはならないのではないかと、ということが大きなテーマであったと思っています。福島。英語でハ  
121 ッピーアイランド、Happy Island Futaba というような形で。いわゆる Happy というのは、幸  
122 せ、楽しさを生んでくるわけですので、人とのつながり、支え合い、助け合い、あとはそういうこ  
123 とがされてくれば、コミュニティが形成されてくるのではというような話ができました。それから  
124 今日の会議は双葉町の歴史・伝統・文化の継承等でございます。これは詳細な意見がたくさん出  
125 たんですが、事務局のほうでいろいろと資料をまとめていただき、国あるいは県、町の文化財等  
126 の一覧表を提出していただきました。逐次に協議を行ったわけですが、ここで1つずつ話をする  
127 と、時間がかかりますので、大きく申し上げますと、1つは、伝統というものは、記録をして、  
128 将来に伝承していくということでありまして。それには現状をしっかりと把握すべきであります。あ  
129 と2つ目には、伝統・文化を継承していくには、どうやって育成していくのか、今までやってき  
130 いたものがここで終われば、伝統・芸術、文化というものが絶たれてしまうわけです。その育成方  
131 法等についても話し合いを行いました。また、そういった文化財をどのように取り扱っていけ  
132 ばいいのか。今は、重要な石碑等について、一時保管という形で県博物館とかそういった所の一  
133 部を借りて保管をしているわけですが、今後の課題が大きくなってきてるわけでありまして。伝統  
134 文化の継承ですが、伝統文化の継承というのは、皆さんもご承知のとおり、長い歴史の中で生ま  
135 れ、育まれ、今日まで守って伝えてきたものが今の双葉町の貴重な財産になったわけでありまして。  
136 今、瞬時にできたものではありません。将来のその文化の向上、発展の基礎をなすものでありま  
137 す。これからの双葉町を継承していくものであります。ですからその文化財を大切に保存し、次  
138 世代に継承するとともに、積極的に公開、活用を行い、広く住民の方々に親しまれていくことが、  
139 求められているわけでありまして。それには記録をしておく。記憶では忘れ、絶たれてしまいま  
140 すので、記録をしておく。それには、やはり経費がかかるというようなことがあります。その実現  
141 のためには、国、県、町がどのように対応していくのか、1つの運動をするのも必要であると。  
142 やはり、町として町民が求めているものには資金を出さなければならないだろうし、地域の文化  
143 を守っていくにはそれなりの資金も必要になる。ただ、伝統、民俗文化を創造的に継承していく  
144 というのは、一地域だけではなくて、日本全体の文化状況を改善につなげていかななくてはなりま  
145 せんので、やはり地域のアイデンティティを形成して、地域社会を豊かに高めていくというのも  
146 あります。また、伝統民俗文化は演ずる側ばかりじゃなくて、見る側も双方が、同一平面にあっ  
147 て、生活のリズムのなかで相互に楽しんで、創造的に活動していかなければならないというよう  
148 なことがあります。そのようなことで、やはり、伝統文化財を継承していくというのは、なか  
149 かな困難で、幅も広くて、深くて、高くて、なかなか一気にはいかないと思いますが、次回、これ  
150 らをもう1度加味しながら進めていくということでした。以上です。

151 【三井所 清典 委員長】

152 どうもありがとうございました。随分、本当に熱心に、ふるさとを思いながらの討論、意見の  
153 交換がなされたというふうに理解したらいいんじゃないかと思います。今の発表に対して、お尋  
154 ねしたいこと、ご意見申し上げたいこととかございましたら、あるいは補足したいこともあるか  
155 もしれませんが。ご発言いただけるといいなと思いますが。高野部会長の説明で、分散型と集中  
156 の話について、もう少し補足してもらおうといいかなと思ったんですけど。

157 【高野 重紘 委員】

158 「仮の町の形態について」、補足いたします。集中型・分散型のそれぞれのメリット・デメリ  
159 ットについて、現実問題として、集中型を目指してすべての町民が集まることはできないので、  
160 分散型であるべきではないか。また、「学校や商売の観点から、集中型が望ましい」、「集中型と  
161 分散型の中間あたりが現実的ではないか」、そういう意見がありました。仮の町については、「仮  
162 の町という言葉に弊害がある」、「長く住み続けることができる魅力的なまちづくりが必要であ  
163 る」、「新生双葉町という考え方が必要ではないか」、こういう意見がありました。以上です。

164 【三井所 清典 委員長】

165 どうもありがとうございました。それぞれ部会に分かれてご意見を言っていたと思います  
166 す。他の部会のことで気になることがございましたらご発言いただいて結構だと思いますが、い  
167 かがでしょうか。それでは、また部会が継続して行われるということで、今日はよろしゅうござ  
168 いますでしょうか。

169 【中村 希雄 委員】

170 先程、部会でも申し上げたんですが、同調者もいらっしゃった件なんですが、今日、ご参加の  
171 中に、復興庁、それから福島県から6名の方がいらっしゃいます。是非、この7名の方に、お聞  
172 きしたいんですが、一昨年末頃に、福島県から県外への避難者については、中止してくれという  
173 要望が一旦出て、今年また11月7日に文書が正式に出ましたね。福島県からの避難者は県外へ  
174 は移動するのをやめてくれと。福島県以外の知事さんへ通知が出ていますよね。それで、先程、  
175 副町長にもお聞きしたんですが、それは国の考えでは、一旦落ち着いてるからいいんだ、という  
176 ようなお考えのようなんですが、あの去年バタバタした頃に、多人数で引越したり、とりあえず  
177 避難した状況のままなんですよ。それで、もう落ち着いてるなんて言われたらとんでもない。そ  
178 ういう避難、借上げ、仮設にいる人たちの今の悩みとか、そういうものを本当に見極めた上で、  
179 あのような文章を流したんならいいんですが、実態はそうじゃないんですよね。あの文書はどう  
180 いう思いがあってやられたのか、詳しくお聞きしたいもんです。お願いします。

181 【三井所 清典 委員長】

182 今の中村委員の発言の内容を、委員の皆さんは主旨をご理解いただいているでしょうか。町の  
183 ほうから、中村委員の発言の主旨を委員の皆さんに理解できるように、お願いできますか。

184 【井上 一芳 委員】

185 井上です。中村委員から出ました質問は、11月5日だったと思います。文書として、「福島県  
186 外への仮設住宅等新規入居の申し込みを年内いっぱい打ち切ります」ということの受付終了の  
187 文書が厚生労働省から発せられまして、それを受けた形で県のほうで発出したもの。この席に復  
188 興庁の方、また、県の方が来られてますので、その中身について、もし掴んでおりましたら、お  
189 答え願えたらと思います。今、中村委員がおっしゃられたように、我々は、当初、何の指示もな

190 く避難させられて、その状態で生活をしている。その状態も十分な状態じゃなくて、例えば 3LDK  
191 に 6 人避難している方もいるし、また、その後やっと落ち着いてこれから、それぞれの生活どう  
192 しようかと考え始める直前に、年内で打ち切られるような文書が出る。また、県内において、自  
193 主避難をしたいという方もいらっしゃるのに、そういう方についても、県外の各県に対して、福  
194 島県知事名で、もう受付は年内で終了するという文書が出ている。このことについて何かコメン  
195 トいただけることがあったら、国または県の方からお願いしたいというのが中村委員からのご質  
196 問です。もしお答えできるようでしたら、お願いします。

197 【三井所 清典 委員長】

198 それでは、国のほうからお願いします。

199 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

200 復興庁の真鍋でございます。今話いただきました件ですが、私のほうでもその真意といいま  
201 か、それは計りかねますといえますか、情報を掴んでおりませんので、この場ではご回答でき  
202 ないということでお詫び申し上げたいと思います。

203 【中村 希雄 委員】

204 大変重要なことですから、大至急対処してほしいと思います。みんな困ってんだから。

205 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

206 その状況は持ち帰らせていただきたいと思います。厚生労働省から発信されているということ  
207 ですので、その状況を私のほうでは掴んでおりませんでしたので、持ち帰って話させていただき  
208 たいというふうに思っております。

209 【三井所 清典 委員長】

210 復興庁の真鍋さんとおっしゃいましたか。情報を掴んでないので、後程ということでした。国  
211 のほうからの発信のあとで、県からも出されたということでした。県のほうとしてはいかがでし  
212 ょうか。

213 【福島県安斎 浩記 統括主幹】

214 福島県避難地域復興課の者でございます。先程の部会の中でも、委員の方から話ございまして、  
215 井上委員の方から、経緯も含めて、今も話がございましたが、初めて聞かれる方もいらっしゃる  
216 と思いますので、若干補足させていただきますと、昨年 11 月か 12 月に同じような通知が発出  
217 されまして、通知の主旨としましては、福島県から新たに他の都道府県等に移転する方につい  
218 ては、借上げ住宅等に関する補助は認めませんというような通知につきまして、昨年 1 度出た中で、  
219 いろいろその後、経緯がございまして、昨年はその通知につきましては取りやめにしまして、引  
220 き続き県外についてはお認めさせていただくということで、新規の借上げについては対象になっ  
221 てきたというところがございます。今、1 年 8 ヶ月程経過いたしまして、改めてこの 11 月に、  
222 委員のほうから話がありましており、福島県から新規に県外に出る方についての費用につい  
223 ては、残念ながらやめさせていただきたいというような話がございまして、福島県内に移動される  
224 方につきましては、引き続きお認めさせていただくというようなものでございます。これは福島  
225 県だけで決めたものではございませんので、厚生労働省のほうと、いろいろ協議してきた中で決  
226 まったという経緯があると聞いております。聞いておりますといえますのは、私と別の部署で、  
227 国とこの間やり取りしまして、残念ながら今回、こういう形になったというふうに伺っておりま

228 す。ただ、福島県としましては、委員から話がございましたとおり、皆様方、非常に大変な状況  
229 にあると当然認識しておりますし町のほうからもそういう意向もございますので、引き続き国の  
230 ほうに強く働きかけていきたいと考えております。

231 【三井所 清典 委員長】

232 どうもありがとうございました。中村委員よろしいでしょうか。

233 【中村 希雄 委員】

234 了解しました。

235 【三井所 清典 委員長】

236 それでは県のほう、これからも町の意見を踏まえて、考えを要請し続けるという。

237 【岡村 隆夫 副委員長】

238 今の件で、県外から県内に行くのはいいと。県内から県外に行くのはダメだと。こういうこと  
239 ですね。

240 【福島県 安斎 浩記 統括主幹】

241 はい。

242 【岡村 隆夫 副委員長】

243 県外同士の動きについては、話が出ませんでしたけども、前まではこれは認められなかったん  
244 ですか。その件も含めて検討していただけるのか。回答いただけますか。

245 【福島県 安斎 浩記 統括主幹】

246 県外から県外ということにつきましては、今現在、残念ながら認められていないという状況で  
247 ございますが、県としましては、これまでの間、国と協議しておりますので、引き続き話をして  
248 いきたいと考えております。問題意識としては認識してございます。

249 【岡村 隆夫 副委員長】

250 それで、いろいろ、今、町民の皆さんの話を聞いたときに、先程言ったとおり、発電所の事故  
251 があって、すぐいろいろ動いたということがありますよね。ですから住環境は十分ではないとい  
252 うことが1つと。それから、今この双葉町で一番抱えている、きずなというのが出てくるわけ  
253 あります。きずなは何かといたら、まず、家庭の中のきずなをつくんなきゃいけないんですよ。  
254 そうすると、親子で今散り散りになって生活している、狭いためにとかで。そうすると、県外同  
255 士で、やっぱり1つになることも大事なんで、こういった条件も是非、入れていただきたいんで  
256 すよ。それから子どもが産まれたと。そうすると、今まで3人だったのが今度は4人になったと。  
257 4人が5人になったということはあるものですから。大変くどいようで申し訳ないんですが、国  
258 とお話されるときに、こういう諸条件をクリアしていただきたいなと思っておりましたので、あ  
259 えて申し上げます。

260 【三井所 清典 委員長】

261 家庭のきずなという、当事者でないかわかんない苦しい状況があること、町から県に届いたと  
262 いうことで、よろしく願います。名前を教えてください。

263 【福島県 安斎 浩記 統括主幹】

264 避難地域復興課の安斎と申します。

265 【三井所 清典 委員長】

266 とても貴重な、重要なお話でしたけど、これに関して他にご発言なさる方おいでになられませ  
267 つか。部会は今後ともよろしくどうぞお願いいたします。

268

269 (2) 計画の基本理念について (審議)

270 【三井所 清典 委員長】

271 それでは本日の審議事項に入りたいと思います。本日は「計画の基本理念について」審議いた  
272 だきますが、まず企画課長から資料3から資料5までまとめて説明していただきたいと思いま  
273 す。よろしくをお願いします。

274 【事務局 駒田 義誌】

275 ではお手元に、資料の3、4、5をお開き下さい。まず資料3ですが、本日ご議論いただきたい  
276 点については、計画に掲げる基本理念、キーワードをどのように考えるかという点です。

277 小さな論点が2つございまして、まず1点目の論点になりますけれども、第4次双葉町総合計  
278 画というものが震災の直前に策定されております。それに掲げられた、将来像、基本目標とい  
279 った、基本理念にあたるようなものについて、復興まちづくり計画にも取り上げるべき要素がある  
280 のではないかというのが、1点目のご議論いただきたい点になります。具体的に委員会資料4と  
281 いうものをお開き下さい。第4期総合計画平成23年3月の基本理念ということで、23年3月震  
282 災直前に作りまして、それから10年のまちづくりの計画でありました双葉町の第4次の総合計  
283 画。こちらにどういった理念が掲げられていたのかというのをご紹介したいと思えます。まず町  
284 の目指したい将来像ということで、町が目指したい将来像は、「みんなが主役！！いきいきワク  
285 ワク双葉町」というのがスローガンとして掲げられておりました。ここの主旨というのは、まち  
286 づくりというのはみんなが主役となり、当事者意識を持って取り組むことが大事ですと。また、  
287 みんながいきいきわくわくと楽しんで取り組めば、人も町も輝くという思いが表現されています  
288 ということが書かれています。具体的に、それに応じた基本目標というものが次のページに5つ  
289 あります。基本目標の1というのが、協働で自立するまち、というのが基本目標の1でありまし  
290 た。基本目標の2というのが、夢を持って働けるまち。基本目標の3というのが、いきいきと学  
291 び続けるまち。基本目標の4というのが、健康で明るく暮らせるまち。基本目標の5というのが、  
292 各世代がともに笑顔で生活できるまち。この5つの目標が、第4次総合計画、平成32年度を目  
293 標年次とした計画の中で掲げられておりました。この点を踏まえて資料3に戻らせていただきま  
294 す。例えば、ここにあった協働で自立する町であるとか、各世代がともに笑顔で生活できるま  
295 ちといった、これまでの双葉町のまちづくりの考え方というものは、これから策定される復興ま  
296 ちづくりにおいても重要な視点ではないかという、議論提起をさせていただければと思います。

297 2点目の論点になりますけれども、これから復興まちづくりの基本方針というのを今後取りまと  
298 めていくうえで、盛り込むべきキーワードはどのようなものがあるか、まあ、スローガンのよう  
299 なものです。この点について、ご議論いただきたいと思えます。資料5というものをご覧くださ  
300 い。他の計画の、復興計画でどういったスローガン、基本理念を掲げているのかというところを  
301 ご紹介します。まず、福島県の第1次の復興計画のスローガンというのが、未来につなげる、う  
302 つくしま、というものになっています。あと3点、理念が掲げられていて、原子力に依存しない、  
303 安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり、ふくしまを愛し、心を寄せるすべての人々の力を

304 結集した復興、誇りあるふるさとの再現、というのが、これが県の計画の基本理念になっていま  
305 す。他の町、代表的なものを取り上げますと、浪江町が先月作りました復興計画、こちらのスロ  
306 ーガンは、「みんなでもに乗り越えよう、私たちの暮らしの再生に向けて、未来につなぐ復興  
307 への思い」ということで、みんなでもに乗り越える、一人ひとりの暮らしの再生、子どもたち  
308 の未来につなぐ、ということが掲げられています。大熊町につきましては、スローガンが、「あ  
309 なた自身と、町の再建・復興を目指して」ということで、復興の理念として、「大地の復活」、「暮  
310 らしの復興」、「産業の振興」、「おおくまからの発信」というのが掲げられています。富岡町につ  
311 きましてはスローガンございませんが、3つの目標がありまして、「今の生活の不安を軽減し、安  
312 心して帰りたいくなる環境を整える」、「震災・原発事故を契機として従前のまちづくりの課題を解  
313 決し、安全・安心で新たな魅力をそなえた、ふるさと富岡をかたちづくる」、3点目として、「当  
314 面帰還できない町民の心身の健康を守り、生活を再建する」といったところが、他の県、または  
315 近隣の町の理念となっております。

316 こういった点も踏まえながら、では、資料3に戻りますけども、双葉町の復興まちづくり計画  
317 としてどういうキーワードを基本方針として盛り込んでいくのかということを考えていく必要  
318 があります。1つ、その観点として大事なものは、生活再建というものを考えたときに、もっとも  
319 重視するものは何かということ、例えば浪江町の復興計画だとやはり、「みんな」というフレ  
320 ーズがいくつか出てきたり、一人ひとりの暮らしの再生といったフレーズが出てきています。こ  
321 ういった生活再建でもっとも重視する点を、どういうものを取り上げるかということが、1つ計  
322 画に掲げる柱として大事ではないか。2点目として、双葉町への復旧・復興について、もっとも  
323 重視するものは何か。これだと、安全であったり、そういった言葉が出てくるのかもしれませんが。  
324 3点目として、町民のコミュニティ、歴史・伝統・文化の維持について、もっとも重視するもの  
325 は何か、という点。これはまた、きずなどか、そういったものが出てくるのかもしれませんが、  
326 こういったところについて盛り込むべきキーワードというものを、この委員会として出していき、  
327 復興まちづくり計画の中に盛り込んでいくことが必要ではないかという議論提起になります。

328 本日、以上2点について、ご議論いただければと思います。よろしく申し上げます。

329 【三井所 清典 委員長】

330 それでは、今の企画課長の説明を聞いたうえで、意見交換に移りたいと思います。提案は1と  
331 2、2つの論点が、提示されておりますけども、どちらからでもよろしゅうございますが、ご意  
332 見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

333 【宇杉 和夫 委員】

334 きずな部会でもいろいろお話を伺いましたし、これまでも1回、2回、3回といろいろお話を  
335 伺って、それぞれ深みのある言葉として聞いていたわけですし、なんと言いますか、このような  
336 ある意味で大変悲惨な体験をした中で組み立てる仕組みとして、それ以前の総合計画のものを土  
337 台にして考えるというのは、良い方法では無いんじゃないかというふうに私は思います。今まで  
338 あがってきたものの中で組み立てて、それと重なったり、どこが近いかということはあるでしょ  
339 うけども、その前にあったものに含まれるというのは、あまり十分ではないと思われませんが、そ  
340 の点はいかがでしょうか。

341 【三井所 清典 委員長】

342 これまで双葉町が震災に遭う前のまちづくりとして、町の中で検討されてた報告書が皆さんに  
343 渡る直前だったんです。直前に皆さんで検討したものがございますので、それはやはり町を考え  
344 る、あるいは町民の生活、文化を考える基本として、1つ押さえておいていいんじゃないかと私  
345 は思うんですけど。事務局もそういうのを手がかりに今後のことについて考えようということ  
346 を提示されていると思います。考えられやすい1つの道筋として理解していただければいいかなと  
347 思いますし、他の町の既に先に動いているいくつかの町のものも提示されておりますので、そう  
348 いうのも参考にしながら、町の基本理念をどのような言葉で表現したらいいかというように  
349 考えていくのはよろしいんじゃないかと。それだけをベースで考えるわけじゃないので。

350 【宇杉 和夫 委員】

351 私は被災した身ではないんで恐縮ですけども、少なくともこの計画の中で、今いる土地の中で、  
352 ある程度断片的にも住めないと、再建する生活の仕組みも変わると。場合によっては家族という  
353 仕組みも変わると。こういう大前提がある中で、そういう前提の無い、振興計画の土台をそのま  
354 ま使うというのは、よくわかんない。

355 【三井所 清典 委員長】

356 そのまま使うということで出されたわけではなくて、皆さんが、町民の皆さんがそれまで「こ  
357 ういうことを考えておいでになったよ」ということを改めてまとめて出されたわけで、これをた  
358 たき台といたしましょうか、1つの資料として押さえればいいんじゃないでしょうか。これを押し  
359 つけるという意味で出されたわけではまったくないと、理解したいと思うんですけども、よろし  
360 ゅうございますか。自由に意見をおっしゃっていただいて結構なんですよ。これに縛られること  
361 はまったく無いと思いますから。

362 【田中 清一郎 委員】

363 震災前のいろいろなビジョンとか、将来の双葉町というのは、まだ公表されないけど、タイム  
364 的に、そこまではできたのはわかるけども、それを発表されると、概念的にそういうのにこだわ  
365 ってくる気もするんで、あくまでもそれはゼロにして、今、生活環境とかなんかが違うでしょ。  
366 現実を直視して、これからの将来をどういうふうに形づくっていくか。こういうほうが私はかえ  
367 って斬新でいいと思うんだよね。私の意見ですけど。

368 【岡村 隆夫 副委員長】

369 まったくそのとおりで。この浪江町も富岡も、古いのがあったかどうかわからないけども、新  
370 しく、現在の中でつくっているということで、理解をしていただければ。これからつくってい  
371 きましょうということですよ。

372 【三井所 清典 委員長】

373 それでは2つの観点に関して、自由にといたしましょうか、今の状況の中から、どういう基本理  
374 念を作り上げるために、どういう気持ち、フレーズ、キーワード、使った方がいいかなというこ  
375 とで、ご発言いただきたいと思います。

376 【木幡 敏郎 委員】

377 私も同じく、やっぱり以前のスローガンではなくて、逞しさとか、前に向かって頑張るとい  
378 う、そのような言葉の新しいスローガンを考えてみたらいいのではないかなというような気もし  
379 ますね。なんかこの必至と感じる厳しさというのかな、めげないで頑張るといようなそういう

380 ふうな言葉のほうが、浪江なりよその町も、再建とか、ともに乗り越えようとか、やっぱり「頑  
381 張る」というようなのが表に感じられて、避難している方も、「みんなが主役！！いきいきワク  
382 ワク」ということは、それを理解はできても、この時期の町の計画には、物足りなさを感じたり  
383 するのではないかという。私もそれは気になってました。

384 【三井所 清典 委員長】

385 どうもありがとうございました。宇杉先生もきっと、そういうような思いからのご発言だった  
386 と思います。参考になる先につくられた町の言葉も見ていただきながら、こういうのはいいんじ  
387 ゃないか、というような話もあっていいと思いますけど。

388 【宇杉 和夫 委員】

389 すいません。言って良いかわかりませんが、基本的には、いろいろ問題があって、それを  
390 解決するためにどうするということ、前の総合計画からつながるのもあるでしょうし、今は  
391 相当また大きな課題の、こういう問題がある。この問題は自分たちの生活のためだけでなく、  
392 次の世代のためにこういう問題があるということ、確認したうえで、問題設定から課題と、ス  
393 ローガンと。あらかじめ最初からこう、どういう方針にするかということではないような気がす  
394 るんですけども。

395 【三井所 清典 委員長】

396 今の生活をベースに、さらに、各部会で議論されたと思いますけども、そういう、例えば生活  
397 再建部会なんかでも、子どものために早く復興したいというような意見が出てますけども、そう  
398 いうことをベースにキーワードが出てくるというようなことになろうかと思います。きずな部会  
399 にしても、それぞれの部会で議論された中で、いかがでしょうか。こういう課題を解決するた  
400 んに、こういう姿勢でいきたいなという。

401 【鶴沼 友恵 委員】

402 鶴沼です。ふと思ったんですが、震災以降、たくさんの支援をしていただいた中で、悪い部分  
403 で言えば、あれもこれもやってもらってるという、人頼みな部分があって、これはできないから  
404 頼もうとか、これは自分でできるわという、だいぶ線引きというか、薄くなっておられる方も増  
405 えていらっしゃるんですね。あれもこれもやってもらおうという人頼みな部分があるので。7000  
406 人の復興会議もそうですけども、町民の一人一人皆さんの意見を聞いて、まちづくりをしていく  
407 んだという、皆さんでこれからつくっていくんだという意識をキーワードにしていくのもいいの  
408 かなと。人になんかこう、「誰々さんとか偉い人、まちづくり委員会の人たちで話合って決めれ  
409 ばいいでしょ」みたいな、人頼みな部分もあるので、「皆さんが主役ですよ」と。ここにもあ  
410 るんですけど。そういう意識があるようなキーワードもいいのかなと思います。

411 【三井所 清典 委員長】

412 どうもありがとうございました。いい意見ですよ。大学の都合でなかなか出席できなかった  
413 泉田委員なんかいかがでしょうか、若いお立場からご発言いただいたらと思いますけど。直接こ  
414 の基本理念に絡まなくても、久しぶりなもんですから。

415 【泉田 邦彦 委員】

416 まとまってないんですけども、泉田が発言します。僕は今、大学院のほうで歴史を学んでいる  
417 ので、2のほうの一番下、町民のコミュニティ、歴史・伝統・文化の維持について、最も重視す

418 るものは何かということについて考えていたんですけども、なんで歴史資料を守っていく、継承  
419 していくのかと考えたときに、例えば、歴史学の立場でいうと、歴史資料を残すことによって、  
420 より確かな歴史像を描いていく。それがつまり、大きく見れば日本全体の歴史の発展、学説史の  
421 発展につながっていくというのが1つあると思うんですよ。それが今度、ちっちゃなというか、  
422 僕らの身近な地域コミュニティといった歴史を守る意味があるのかというのを考えたときに、今  
423 現在、問題として、歴史、地域コミュニティが崩壊しているわけじゃないですか。歴史資料を守  
424 るのがそれにどうつながっていくのかと言いますと、歴史資料、文化とか伝統というのは、町民  
425 全員で共有できるものですよ。言ってしまうえば、歴史資料、文化、伝承、生活の痕跡というの  
426 が、地域の記憶であると。そういった地域の記憶というのを、町民全体で共有することによって、  
427 私たち双葉町民はこういうふうな風土だったり、歴史だったり、伝統文化のうえに成り立ってい  
428 るんだというのを、みんなで共有することが、「私たち双葉町民はこういう人たちです」という  
429 ふうな、町の核になっていくと思うんですよ。ですから、僕はそういった、歴史とか文化とか  
430 を継承していく、コミュニティが崩壊していくことから見ますと、地域の記憶というのをみんな  
431 で共有することによって、それが心の拠りどころになって、それが結集すれば核と、生活の基盤  
432 になっていくんじゃないかと考えています。

433 【三井所 清典 委員長】

434 どうもありがとうございました。今、泉田委員の話聞きながら、風土というのとか、みんな  
435 が共有しているものは何か。そういう共有しているものがあるから、きずながあるんだとか、あ  
436 るいはアイデンティティとか個性、双葉町の人たちの個性というのがあるんだというふうに理解  
437 をしているんですけども。学者じゃないので、少し乱暴な意見かもしれませんが、司馬遼太  
438 郎の話今、聞きながら思い出しました。司馬遼太郎は、いろいろな地域の風土記、「新・風土  
439 記」というのを書いているときに、言ってた言葉が頭に引っかかってたんですけども、風土を体  
440 現している地域の人々の個性みたいなものは、1人1人を取り上げたときには、あまりはっきり  
441 しないと。だけど、大きく全体を捉えると、「双葉の人はこうだよな」とか、「福島の方はこうだ  
442 よな」と、あるいは、「会津の方はこうだ」、「郡山の方はこうだ」というふうに何となく言える  
443 ものがある。「その何となく言えるものがあるということが、風土が育んだ人々の気持ち、文化、  
444 そういうものだ」というふうに言ってたと思うんですよ。ですから、泉田委員の、研究者として、  
445 今、ベースにすべきものというのを語られたんですが、日常的な感覚からいうと、歴史って遠い  
446 もののような感じですし、地域のアイデンティティといっても、自分のことかなというふうに思  
447 われたりするかもしれませんが、会津の人の気持ちと言ったときに、なんか漠然とあるよね  
448 という話とか、そういうふうに理解してもらおうと、やっぱり双葉の人たちの中に根付いて、長  
449 い歴史の中で育まれてきた文化というのは私は、神経の隅々まで、毛細血管の隅々まで染みこん  
450 だというふうに、私は思っています。そういう思いの中で、地域が地域らしく生きていく。地  
451 域の力を持って、地域をつくっていくというふうに思っているんですけども、双葉の皆さんが今  
452 散り散りになってるんだけど、共通して持っていることは何かというふうに考えるのはとても重  
453 要なことだなというふうに今、思いました。そういうのを、これからも復興のベースにするとい  
454 うことも、とても重要なことじゃないかと感じました。ご意見をさらにいただきたいと思いま  
455

【藤田 博司 委員】

456 藤田と申します。これから双葉町を、どういうふうにしてやっていくのかということで、私等  
457 の部会としては、先程、高野部会長がお話されたように、自分たちがこれから仮の町をつくって  
458 いくときに、どういうふうな町をつくっていくのか、あり方が正しいのか。集中型か分散型か  
459 というようなお話もございましたけども、その中で、自分たちがいずれにしても、集中型にしても  
460 分散型にしても、それをこれから自分の町のもの力を合わせて、それでいずれかの日は双葉町  
461 に帰るんだという、そういう理念があるからこそ、この仮の町もつくっていけるんだと思います。  
462 木村先生の、大学の先生のお話だと、150年あるいは200年はかかるんじゃないかというお話も  
463 ありましたけども、それは現在の技術でそのままいった場合にはそうなのかもしれませんけども、  
464 これからいろいろな産業なり、あるいは国なりが、除染の方法とか、それをカプセルにする、そ  
465 ういうふうなことで、身体に影響を及ぼさないようなふうになっていけば、少しでも早く双葉町  
466 に帰ることが可能ではないかと思うんです。少なくとも、そういうような双葉町に戻るまで、自  
467 分たちが現在何をすべきかということをお話の中で、スローガンとして掲げて、取り組んでいった  
468 ほうがいいんじゃないかというふうには私は思います。以上です。

469 【三井所 清典 委員長】

470 どうもありがとうございました。いずれの日にか必ず帰還するということを前提に、技術もい  
471 ろいろ変わっていくだろうということも踏まえながら、今、何をしていたらいいか、というふ  
472 うに考えたい。良い姿勢じゃないかというふうに思いますけども。

473 【齊藤 宗一 委員】

474 2、3挙げさせてもらってよろしいですか。今、こういったいろいろ意見聞かせていただいて、  
475 やっぱり、みんなで頑張るという言葉を入れたほうがよろしいのかなと思いますけども。例えば、  
476 他所さんの町も見ながら私たちの町でも以前考えてたものを、簡単に要約してですね、町の人々  
477 の力を結集した、とか。あとは、これは私が今さらっと思っただけですからね。あとは、みんな  
478 できるとともに乗り越えよう。未来へつなぐ復興への思い。これは浪江町さんでございます。あとは、  
479 暮らしの復興を推進できるようみんなで頑張ろう。あとは、私たち、きずな部会の中でも出てた  
480 んですが、町民のコミュニティの継続。もう1つ並べるならば、歴史と伝統文化の継承。そうい  
481 ったもので、コミュニティを基礎にして、集まる機会を増やして、みんなで頑張ろうということ  
482 です。以上です。

483 【三井所 清典 委員長】

484 どうもありがとうございました。今のような気持ちで、ご自由にいろいろつくって見たら。

485 【高野 泉 委員】

486 岡村副委員長の話の中で、ふと思ったんですが、簡単なようでなかなか難しいと思うんですが、  
487 家族のきずなですね。やはり、家族と地域のきずな、これ、町でもいいんですが。家族と町のき  
488 ずなを求め新たなふるさと双葉町、とか、そういった家族のきずなというのは、簡単なようで非  
489 常に難しい。あと、町の人々が各地に散らばってますので、そういったことを入れたほうが、優  
490 しさの中に、力強さが出るんじゃないかと思いましたので、提案させていただきます。

491 【木幡 敏郎 委員】

492 いろいろみんな考えることは同じじゃないかと思うんですが、今ここでそれぞれがいろいろな  
493 ことを考えるよりも、全体として、皆さんの声を吸い上げながら、暮らしとか、地域とか、伝承

494 とか、いろいろあると思うんで、それをこの次までということではいかがでしょうか。今ここで、み  
495 んながそれぞれ、みんな上手い言葉ではなかなか言えないけども、思いはあると思うんですよ。  
496 そういった意味では、例えば、今言ったようにキーワード。とにかくそういうことを組み合わせ  
497 ながら、何かつくってもらおうというのは無責任かもしれませんが、その前段にはみんなの声  
498 を聞きながらという意味で、帰ったらいつまでに出してくれというようなことではダメですかね。  
499 どうですか。

500 【三井所 清典 委員長】

501 もちろんそれでいいですよ。あとで、いずれにしてもまとめなくてはいけないので。それで  
502 は、あとで、寄せていただくことも含めて、とりあえず何か作ってみて何回か書き直していくこ  
503 とだと思えます。今日も事務局からもとりあえず出してもらってるんですけど。

504 【岡村 隆夫 副委員長】

505 木幡委員の言ったとおりでと思うんで。今の最初に鶴沼委員の話にもありましたけども、今せ  
506 っかく 7000 人の復興会議もやってます。そうするとこの中を見てもみますと、いろいろ提言され  
507 てる問題の中に含まれてるもんですから、この辺をもう一回、皆さんに目を通していただいて、  
508 吸い上げられるものがあればそこで吸い上げていくということで、来月いっぱいくらいで。どう  
509 なのでしょう、日程的に、そういう日程でまとめていければいいかなと。7000 人会議はいつ  
510 まででしたっけね。12 月 16 日ですか。その辺も含めて、それぞれせっかく集まってきていた  
511 いた人もいますんで、意見を拝聴したいと思いますが、いかがでしょう。

512 [賛成と呼ぶ委員あり]

513 【三井所 清典 委員長】

514 岡村副委員長からのお話もございました。そういう方向でいきたいと思えますけど、よろしい  
515 でしょうか。

516 [賛成と呼ぶ委員あり]

517 【三井所 清典 委員長】

518 どうもありがとうございます。

519

520 (3) その他

521

522 3. その他

523 【三井所 清典 委員長】

524 時間はまだ、少し時間があるんですけども、自由発言の時間ということにしましょうか。

525 【木幡 敏郎 委員】

526 せっかく復興庁のほうから。やっぱりみんな、先程の意見にもあるように、分散型か、集中型  
527 か。これについては例えばやっぱり学校なんかも、1 ヶ所で、ある町ではそういう風に取り組ん  
528 でますけども、やっぱり 1 ヶ所でないとある程度の人数がいないと。そういう意味で、今いろ  
529 ろ、メリット・デメリットありますけども、例えば、1 ヶ所集中型というものがあって、できる  
530 のかどうかということについての、国、これ相当な予算と、壮大な計画。新しいまちをつくる  
531 ということですけど。これについては現在どのような検討というのかな。その一部でもお聞かせ

532 できませんか。

533 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

534 復興庁真鍋でございます。今、仮の町、先程、部会のほうでも、集中型、分散型かというご検  
535 討されておられましたけども、国としても、仮の町、私どもは町外コミュニティと呼んでおりま  
536 すけども、いろいろな形態があるという中で、当然先程の議論なんかでも、受け入れ側の自治体  
537 のご意見とかもあるという中で、いろいろな課題等、検討、議論して、制度的なものとか、例え  
538 ば住民票だとか、そういったいろいろな問題がある中で広く検討しているところでございまして、  
539 今、集中型ということで、そういったことは現実的に可能かという話がありましたけども、まだ、  
540 申し訳ないですけども、集中型かと、そういったところまで具体的に検討しているところは国とし  
541 てもまだ進んでないという状況でございます。ご質問は、具体的に検討しているかというところ  
542 でよろしいですか。

543 【木幡 敏郎 委員】

544 背景としては、このままでは町は無くなるということも危機感としてありますよ。その場合、  
545 国はこのような状況になったときに、私は、双葉町とか浪江町とか、おそらく帰る人、帰らない  
546 人とか、いろいろな事情、1年8ヵ月以上経って、コミュニティというところ、新たな風土、伝  
547 承、継続していくということを考えたら、新しいまちづくり、集中型という形になれば、相当の  
548 土地とそれから予算が必要です。これは国がやってくれる覚悟があるのかということ。それと、  
549 国がある程度バックアップしなければ、おそらくこのままでいったら分散型ですよ。それは300  
550 戸とか500戸とか、小さな、そういうふうなある町の中に埋没して住むしかないのかなというふ  
551 うな思いがありますよ。メリット・デメリットありますけれど。本当に真剣に双葉町、あるいは  
552 双葉市ということでもいいです。いろいろな人たちの思いをやるためには、国有地とか、大きな  
553 土地があるんですから、そういうこともやっぱり1つ、考えの中に入れて、私はそういうふう  
554 あるべきではないかと思うんですけども。だから考えているのかどうかということを知りたかっ  
555 たんです。考えていただきたいなど。

556 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

557 考えているかということをお申し上げますと、まだ具体的にそこまでは考えられてない。いろい  
558 ろな形がある中で、幅広く検討していく中で、確かに今の議論の中では、なかなかまとまってと  
559 なる双葉町民の方7000人の方が、仮に1ヵ所でお住まいになるとなると、これはかなりの面  
560 積必要になってきますので、果たしてそういったことが現実的に可能かと。あと、そういったニ  
561 ュータウン的なものをつくらせるとなると、当然土地だけではなくて、時間もかかってくるでし  
562 ょうし。そういったところが物理的に可能かということもあろうかと思えます。そういったご意見も  
563 あるということは、私ども十分に認識はしておりますので、そういうことを引き続き検討させて  
564 いただければというふうには思っております。

565 【木幡 敏郎 委員】

566 いつかまた聞きますから、検討すると言った以上。

567 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

568 そういったところも、復興庁以外も双葉町さん、それから福島県と復興庁と三者でアンケート  
569 という形で、そういったご意向を幅広く聞きながら進めさせていただきたいと思えます。そのた

570 めにアンケートを来月下旬からお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいた  
571 します。

572 【齊藤 宗一 委員】

573 我々と同じく避難されている方いらっしゃいますか。いらっしゃらない。

574 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

575 私は東京に住んでおりますので。

576 【藤田 博司 委員】

577 よかったな。

578 【三井所 清典 委員長】

579 やはり、皆さんのお気持ちは、短中期に帰還できないような、双葉の状況を薄々、というかか  
580 なり明確に意識しながら、本当にまとまったコミュニティができる規模、拠点といっても一定の  
581 規模が必要になってくる。どういう拠点づくりというのが可能かと、国はそれをどういう気持ち  
582 で支援しようとしてるか、聞きたい気持ちはものすごくあるわけですね。その気持ちをご理  
583 解いただいて、検討をお願いしたいと思います。自由発言の時間ということにしましたが、早  
584 く終わってもいい、ということもあろうかと思えます。せっかくだから、ご意見、ご発言をいた  
585 だきたいという気持ちが強いんですけども。

586 【中村 希雄 委員】

587 政権が変わっても、今度、復興庁のスタンスはどうなるんですか。

588 【復興庁 真鍋 聡 専門調査官】

589 私ども、政権の話はなかなかできない立場でございますけども、政権がどうこうという話では  
590 なくて、復興に向けての思いは続けて持っておりますので、そこはご理解いただきたいというふ  
591 うに思います。

592 【三井所 清典 委員長】

593 最後に企画課長のほうから説明がございます。

594 【事務局 駒田 義誌】

595 最初に部会のテーブルの際に、7000人の復興会議の今後の予定を置かせていただきましたけ  
596 れども、簡単に紹介させていただきます。まず1つ、各福島、埼玉、つくば、東京の地域で地域  
597 事務局という組織が、各地区単位で復興まちづくりについて議論するワークショップの企画をこ  
598 のように福島、埼玉、つくば、東京という形で日程を決めております。広報等でこれから周知を  
599 していきますが、こういった形の小さな会議を重ねていくということもやっていきます。めくっ  
600 ていただいて、最後の大きな会議については、12月16日の日曜日に東京の秋葉原でやること  
601 が決まっております。復興会議につきましては、年内で町民の方々、ワークショップ形式で意見を  
602 聞く場ということで重ねていきたいと思っておりますので、お知り合いの方等、積極的にご参加いた  
603 けるように、委員の方々にもご協力をお願いできればと思っております。よろしくお願ひします。

604 【三井所 清典 委員長】

605 双葉町の7000人の復興会議につきまして何かご質問はございますでしょうか。

606 【鶴沼 友恵 委員】

607 鶴沼です。終わりがけのところで申し訳ございません。こないだ7000人の復興会議のほうで、

608 ネットのほうで投稿をしようと思ったんですが、できなかつたんです。あれって 7000 人の復興  
609 会議が開催中じゃないとできないんでしょうか。

610 【事務局 駒田 義誌】

611 できます。

612 【鶴沼 友恵 委員】

613 説明どおりクリックしたんですが、画面全然動かないので。やり方が少しわかりづらいので、  
614 申し訳ないんですけども、素人なもので。わかりやすくしていただければと思います。よろし  
615 くお願いします。

616 【井上 一芳 委員】

617 パスワードに、アルファベットの大文字を入れなければいけないんだけど。

618 【鶴沼 友恵 委員】

619 最初の登録するところを押しても全然動かないんです。

620 【事務局 駒田 義誌】

621 個別に相談しましょう。通常できているので、何かがトラブルっているのかもしれませんが。

622 【三井所 清典 委員長】

623 今日の帰りでも、事務局に寄って確認してください。それではどうもありがとうございました。  
624 今日は部会で熱心な発言をいただいた後の部会でしたけど。

625

626 4. 閉 会

627 【三井所 清典 委員長】

628 どうもありがとうございました。それではこれで終わりにします。どうもありがとうございました。  
629 した。

630

631

632

以上

# 第5回双葉町復興まちづくり委員会座席表

(敬称略)

岡村 隆夫  
三井所 清典

1 日時 平成24年11月26日(月)

部会 13:00~14:45

全体 15:00~16:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階家庭科室

高野 重紘	田中 清一郎	宇杉 和夫	駒田 義誌	相楽
高野 泉	宗像 邦浩	藤田 博司	事務局 平岩 邦弘	事務局 橋本
大橋 庸一				西牧
復興庁 真鍋 聡 専門調査官	井上 六郎	齊藤 宗一	井上 一芳	吉野
福島復興局地域班 鈴木 伸彦 補佐	(関係者) 中村 富美子	中村 希雄	高野 憲一	事務局 松橋
福島復興局企画班 安保 広訓 主査	岩元 善一		武内 裕美	大内
福島復興局地域班 二階堂 雄二 係員	(代理) 横山 泰仁	木幡 敏郎	大住 宗重	中陳
福島県 避難地域復興課 安斎 浩記 総括主幹兼副課長	(関係者) 末永 幸弘	西内 芳徳	渡邊 勇	事務局
福島県 避難地域復興課 小椋 貴博 主事		鶴沼 友恵	竹本 良一	
税務課 大沼 武 課長	松本 浩一	渡邊 ゆかり	山下 正夫	
生涯学習課 今泉 祐一 課長	荒木 幸子	泉田 邦彦	大橋 利一	事務局